

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教育学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価） 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学生の学習成果を継続的に把握するための方策の検討と情報交換の場を設ける。	→「学部のカリキュラムの教育成果を継続的に検討する委員会の有無と検討の進捗状況」	B
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

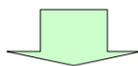
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.4.1	(方針) 学生の学習成果を継続的に把握するための方策の検討と情報交換の場を設ける。 (現状説明) 学部開設初年度であるため、教育学部において編成された現行のカリキュラムが、学生の学習成果に結びついているかどうかを検証する方策を検討していく考えである。
☆ 小項目6.4.2	(現状説明)
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.4.1	
☆ 小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策

小項目6.4.1	
☆ 小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目6.4.1	学生の学習成果を把握する方法。
☆ 小項目6.4.2	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目6.4.1	カリキュラムの教育成果を評価する際、学生のGPA値を資料として活かす。
☆ 小項目6.4.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
☆ その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○6.4は主として課程修了以降に測られる教育成果を指しているため、完成年次以降は就職状況や卒業生へのアンケート調査等を指標として検討することが望まれます。

【学内委員】

- (方針)は不要です。現状説明に含めてください。
- 年次の進行にそって、検討が進むことが期待されます。
- 6.4.2の現状説明をしてください。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

6.4.1「現状説明」の(方針)部分を削除し、下記のように修正。
(現状説明)学部開設初年度であるため、教育学部において編成された現行のカリキュラムが、学生の学習成果に結びついてい
るかどうかを検証する方策を検討していく考えである。

☆

6.4.2「現状説明」に下記のように追記。
完成年度(2012年度)卒業予定者に対する卒業判定を適切に行うために、その方法について学部長室会で具体案を検討する考
えである。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.4.0.S1	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.4.0.S2	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.4.0.S3	各学部における学生の進路状況
6.4.0.S4	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.4.0.S5	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.4.0.S6	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.4.0.S7	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.4.0.S8	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.4.0.S9	修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S10	KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S11	3年卒業の適用者数
6.4.0.S12	ジョイント・ディグリーの授与者数
6.4.0.S13	標準修業年限未満の修了者の数
6.4.0.S14	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

<個別的な指標>

--	--